

算数の模擬授業の説明

■基礎情報

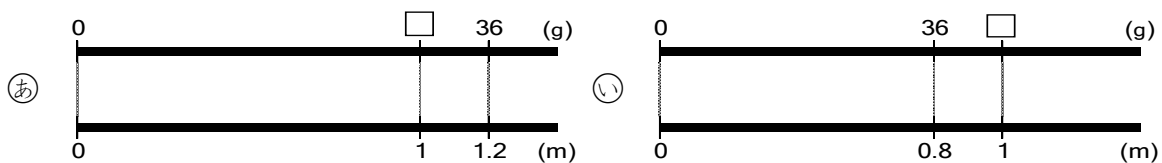
学年	小学校第5学年
単元	小数のわり算
本時のねらい	わる数が1より小さいとき、商はわられる数より大きくなることを理解することができる
評価の観点	知識・理解

■模擬授業で示す場面

以下は、本時学習する教科書の内容。このうち、「鉛筆問題1」からの場面（授業終末の定着状況を見届ける場面）

1

1.2mの重さが36gのはり金①と、0.8mの重さが36gのはり金②があります。
それぞれの1mの重さを求めて、36gと比べましょう。



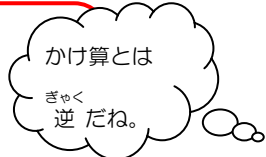
1 それぞれの1mの重さを求める式を書いて、答えを求めましょう。

① = (g) ② = (g)

2 答えが36より大きくなるのはどんなときでしょう。
また、36より小さくなるのはどんなときでしょう。

わられる数，わる数，商の関係は，次のようになっています。

わる数 > 1 のときは，商 < わられる数
 わる数 = 1 のときは，商 = わられる数
 わる数 < 1 のときは，商 > わられる数



1 商がわられる数より大きくなるものを選びましょう。
また、そのわけを説明しましょう

① 2.8 ÷ 1.4 ② 5.4 ÷ 0.9 ③ 7.16 ÷ 0.2 ④ 0.39 ÷ 1.3

2 商が，ある数●より大きくなるか等しくなるものを選びましょう。

① ● ÷ 3.8 ② ● ÷ 0.4 ③ ● ÷ 1 ④ ● ÷ 0.06

模擬授業の場面

理科の模擬授業の説明

■基礎情報

学年	中学校第1学年
単元	身のまわりの現象 「いろいろな力の世界」
本時のねらい	水面からの深さが深くなるほど水圧が大きくなること、また水圧は水中のあらゆる方向からはたらくことを、実験を通して見出すことができる。
評価の観点	思考力・判断力・表現力

■模擬授業で示す場面

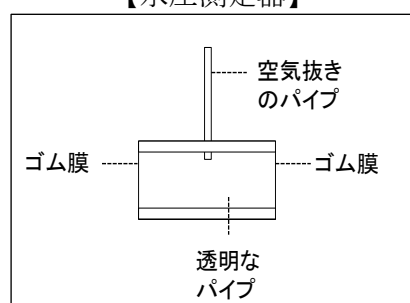
以下の<授業の展開>の**模擬授業は、ここから!**の場面

<授業の展開>

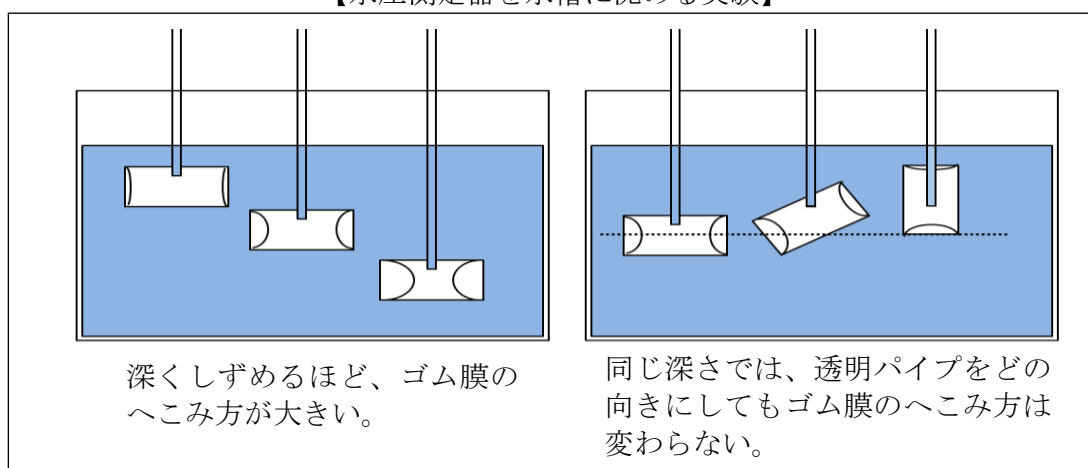
① 実験

- ・ 水圧測定器を水槽に沈める実験を行った。

【水圧測定器】



【水圧測定器を水槽に沈める実験】



② 実験の考察

①の実験から、「水面から深くなるほど水圧が大きくなること」「水圧は、水中のあらゆる方向からはたらくこと」を見出させた。

③ まとめ

本時の課題「水圧の特徴は何だろう」に対する自分の考えをノートに書かせた。

(生徒が書いた本時の課題に対する考え)

「水圧は、深さが深くなるほど大きくなり、全ての方向から働く。」

模擬授業は、ここから!

④授業終末「定着状況を見届ける」の場面

「知識・理解」「技能」の
定着状況を見届け、指導しきるために

1. 見届け方

■「形だけの全員挙手」「一部の子の発言と一部の子の同じです」で見届けない。

⇒一人一人が説明する学習活動で見届ける。

■つまずきを克服できているかを見届ける。

■既習内容と関連付けて理解できているかを見届ける。

2. 見届けた後の指導 → 指導しきる

■定着が不安な子どもは集めて指導する。

■新たな課題を提示する。

「思考力・判断力・表現力」の
定着状況を見届け、指導しきるために

1. 見届け方

■「形だけの全員挙手」「一部の子の発言と一部の子の同じです」で見届けない。

⇒一人一人が説明する学習活動で見届ける。

■つまずきを克服できているかを見届ける。

■本時学習したことを使って、実生活での別の事象を説明できるかを見届ける。

2. 見届けた後の指導 →指導しきる

■定着が不安な子どもは個別に指導する。

■日常生活への適用という新たな課題を提示する。

生涯にわたって学び続ける子どもに
～「関心・意欲・態度」の育成～

「変容」でみる。

- ・言葉がけの工夫、ノートの工夫、ICTの活用

「長いスパン」でみる。

- ・単元、題材全体を通じて

《指導》

つまずきを捉えた指導、既習内容と関連付けた指導
実生活とつなげた指導